

<b>テニクロール・ピラゾキシフェン・プロモブチド水和剤 ワンベストフロアブル</b>	<b>取扱メーカー：</b> 石原，ホクサン  <b>原体メーカー：</b> エス・ディー・エス， 石原産業，住友化学
<b>成分：</b> テニクロール〔酸アミド系〕……………2.0% ピラゾキシフェン〔ピラゾール系 PRTR・1種〕…15.0% プロモブチド〔酸アミド系〕……………10.0%	<b>性状：</b> 類白色水和性粘稠乳懸濁液体 <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> —

### 【品目特性】……………

- 処理量の使い分けで初期剤，初期一発処理剤として使用でき，使用場面が広い除草剤である。
- 拡散性に優れたフロアブル剤で，幅が50m以下までの水田では，水田の中に入らず散布できる。
- 一年生雑草はもとより多年生雑草にも高い効果を示す。
- 無人ヘリコプター，水口施用，田植同時施用に適用がある。
- 難防除のスルホニルウレア抵抗性アメリカゼナなどの一年生広葉雑草やホタルイにも高い効果を示す。
- 移植水稻に対し影響の少ない成分を組み合わせしており，田植同時施用も可能。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】……………

- 共通注意事項の5，水稻除草剤散布 使用上のポイントを参照。
- 10a 当り使用量0.3～0.5ℓの場合は，必要に応じて移植後に使用する除草剤との体系で使用する。
- 一年生広葉雑草多発田での使用はさける。

### 〈処理量と処理時期〉

雑草名	散布適期		
	1ℓ/10a 処理	0.5ℓ/10a 処理	0.3～0.5ℓ/10a 処理
ホタルイ		発生始期まで	発生始期まで (北海道は発生前)
ウリカワ	2葉期まで	—	
ミズガヤツリ ヘラオモダカ		発生始期まで	—
ヒルムシロ	発生期まで	—	

### 【薬効・薬害等の注意】……………

- 共通注意事項の5，水稻除草剤散布 薬効・薬害等の注意を参照。
- 適用作物（水稻）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

### 【安全対策上の注意】……………

- 無人ヘリコプター滴下の際は，散布装置のノズルを取り外した上で，共通注意事項の2，空中散布及び無人航空機（無人ヘリコプター等）による散布・滴下に関する注意事項を参照。
- 魚類に影響を及ぼすので，使用時は注意。
- 甲殻類・藻類に影響を及ぼすので，使用時並びに使用後も注意。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



# 【適用と使用方法】 .....

作物名	適用雑草名	適用土壌	使用時期	10 a 当り 使用量	使用方法	適用地帯	本剤の 使用回数
移 植 水 稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ (北海道、東北、 北陸) ヒルムシロ	砂壌土 ～ 埴土	移植直後～ ノビエ 1.5 葉期 但し、移植後 30 日まで	1 ℓ	原液湛水 散布又は 水口施用	北海道	1 回 ※
			移植直後～ ノビエ 2 葉期 但し、移植後 30 日まで			全域（北海道、 九州を除く）の 普通期栽培地帯 及び関東・東山・ 東海の早期栽培 地帯	
	埴土～ 埴土		九州の普通期栽 培地帯及び近 畿・中国・四国、 九州の早期栽培 地帯				
		水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ (東北、北陸) ヘラオモダカ (北海道、東北)	砂壌土 ～ 埴土	移植時	500 ml	田植同時 散布機で 施用	
	移植直後～ ノビエ 1 葉期 但し、移植後 30 日まで			原液湛水 散布、水 口施用又 は無人ヘ リコプタ ーによる 滴下			
	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ	砂壌土 ～ 埴土	埴土～ 埴土	移植直後～ ノビエ発生前 但し、移植後 30 日まで	300 ～ 500 ml	原液湛水 散布	
移植直後～ ノビエ 1 葉期 但し、移植後 30 日まで (関東・東山・ 東海の早期栽培 地帯及び 近畿・中国・四 国の砂壌土は移 植直後～ノビエ 発生始期 但し、移植後 30 日まで)			全域（北海道、 九州を除く）の 普通期及び早期 栽培地帯				

※テニクロールを含む農薬の総使用回数 : 2 回以内

※ピラゾキシフェンを含む農薬の総使用回数 : 2 回以内

※プロモブチドを含む農薬の総使用回数 : 2 回以内